

## 第4回 仙台市音楽ホール検討懇話会

日時 平成30年8月10日（金） 14:30～16:15

場所 市役所本庁舎2階 第三委員会室

出席者 今井邦男委員、垣内恵美子委員、庄子真岐委員、高田登志江委員、三塚尚可委員、村上ひろみ委員、本杉省三委員、天野元委員

次第 1. 開会

2. 議事

(1) 第3回懇話会の議論の整理について

(2) 音楽ホールの立地のあり方と検討方法について

3. 閉会

配布資料 資料1 第3回仙台市音楽ホール検討懇話会 議事要点

参考資料1 仙台市音楽ホールの基本的考え方（これまでの整理）

資料2～5 音楽ホールの立地のあり方と検討方法について

参考資料2 基礎調査報告書での「立地のあり方」

参考資料3 劇場・音楽堂の立地事例

参考資料4 敷地や立地を評価する視点、チェック項目

参考資料5 仙台市音楽ホール検討懇話会設置要綱

### 1. 開会

### 2. 議事

（会議公開の確認→異議なし）

（議事録署名については、本杉会長及びもう一人（五十音順）の委員に依頼（今回は高田委員）→異議なし）

#### (1) 第3回懇話会の議論の整理について

##### ○本杉会長

第3回懇話会の議論の整理について、事務局からの説明をお願いいたします。

##### ○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料1、参考資料1に基づき説明）

##### ○本杉会長

ただいま事務局から説明がありました件につきまして、委員の皆様からご意見があったらお願いいたします。

前回、私やむを得ない事由で欠席だったのですが、人材育成機能を含めて、この施設の特徴がよく表れているのではないかと考えています。参考資料1の設置目的3、復興の力となった文化力を社会に活かすというのは、今回計画している施設の大きな柱の一つで、重要なところだと思います。要点の1のところでは人材育成において具体的な人材が想定され、プロデュースする人材と書かれていますが、それも非常に幅広いプロデュースだと思うんです。従来の公演や催しを企画、制作していく人たちや、観客を創造していく、あるいは技術

とか施設のマネジメントをしていくといった人材ばかりでなく、文化力を使って社会と施設を結びつけていく、社会と芸術・文化を結びつけていく、そうしたプロデュースをする人材といったものまで含んでいるのだらうと思います。その意味で非常に重要な事柄が含まれているのではないかなと思っています。

実際、日本のこの分野はあまり強くないんですけれども、だんだんと意識されてきて、東京文化会館でもポルトガルのポルト市にあるカーザ・ダ・ムジカという組織と協力して、地域において文化を広め、文化を通して社会の課題と向き合う、つながるリーダー的な人を育てようという活動が行われています。そういったものがこの仙台でも培われていくと非常に意味ある施設になっていくのではないかなと思います。

他に、意見はありますか。なければ、議題1については以上で終了ということにさせていただきたいと思います。

## (2) 音楽ホールの立地のあり方と検討方法について

### ○本杉会長

続きまして、議事2の音楽ホールの立地のあり方と検討方法について、事務局から説明をお願いいたします。

### ○事務局（株式会社政策技術研究所代表取締役）

（事務局より資料2～5、参考資料2～4に基づき説明）

### ○本杉会長

大変多岐にわたる内容です。まちづくりの話から、特に誇りと愛着が持てるような施設づくりが必要なんだという話から始まり、コンパクトなまちづくりを目指している仙台でのこうした文化施設の位置づけ、それについてもお話いただきましたし、仙台に来る東北、宮城県以外の県の方たちがどんな理由で来ているのかという話があり、その中でコンサートを目的に来ていらっしゃるという方が14.5%いるということでした。

また、4つの他都市の事例も示していただきました。そうした事例とともに、最後に敷地や立地を評価する視点というものも紹介いただきまして、非常に幅広い内容になっております。一遍に全部理解するのは難しいかと思いますが、そのように立地、敷地に関する検討というのは多岐に及んでおり、また、専門的な要素が絡んでまいります。そうしたことから、今後立地に関する専門部会を設置して、そこでもう少し検討を行っていきたいと考えております。

本日の懇話会では、専門部会での検討の前提となる大きな方向性について整理できればなというふうに思っておりますので、皆様のご意見をいただければと思います。

順番で恐縮ですが、こちら垣内委員からぐるっと反時計回りで、最後に副会長の今井委員まで皆さんそれぞれからご意見いただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

では、垣内委員、お願いします。

### ○垣内委員

トップバッターで失礼いたします。

劇場の立地はそれぞれの都市のこれまでの発展の経緯ですとか、現状というものを十分に踏まえた形で戦略的に具体的に決めていくのだらうというふうに思うところですが、一応今

までいろいろな劇場について調査をしてきたこともあり、また、私個人的に思うところもあるので、3点ほど述べさせていただきたいと思います。

まず、1点目は、やはり日本全体が今、少子高齢化ということで、今まで公的なサービスを、どんどん広がっていく居住地に住まわれている方全員に平等に提供するということがもうはっきり言って無理になりまして、国全体としても、事務局からずっとご説明がありましたようなコンパクトシティという考え方は入れざるを得ない。今までスプロールでどっと広がっていたのが戻ってくる、もうベクトルが変わっている。今後、10年、20年、この施設ができた後のことを考えるとですね、やっぱりそのコンパクトシティへの流れ、都市の機能を集約させて、そして効率化を図って同じ資源を投入しても、より多くの人たちにサービスを提供できる、そういう考え方というのは必ず必要になると思うんですね。だから、これまではいろいろなところに文化施設をつくって、そこに来てもらおうという考え方もあったと思いますし、文化施設がないところにつくろうとか、いろいろなバランス感覚とかもあったかと思うんですけれども、今、これからつくるのであれば、やはり都市機能を集約させて、その相乗効果が狙えるようなところに立地するというのが一般論からいうと重要ではないかというふうに思います。ある意味、周辺が集積があって、文化を楽しんだ方々がその前後でいろいろな活動もできるというようなことを考えますと、先ほどの資料で何かピンク色のところのございましたけれども、魅力的な部分が、仙台というのはそもそも非常にコンパクトなので、見た目ここかなというようなところが地図上に載っていたように思うんですけれども、できれば新幹線が停まる仙台駅周辺というのはすごく魅力的な立地かなと、外から見ると思います。私も東京から来ましたけれども、1時間少して仙台に来れることを考えたときには、やはりそこは一つ仙台が持つ強みでもあろうかと思っておりますので、また、町並みもとてもきれいなんですよ、杜の都ということで。おりたときに、通常JRの駅前というのはいろいろなこう、ある意味雑多な商業施設がたくさんあるところがあるんですけれども、仙台のまちというのは非常に緑が多くですね、徒歩圏で、10分、15分歩いたときに、他の都市と非常に違う魅力もあるように思います。なので、中心部にあったからといって、雑多な商業サービスの中に埋もれるということはないのではないかという感じがいたします。これが1点目です。

それから、2点目は、これは私もいろいろなホール、それからミュージアムも出かけておりますが、さっき言ったように、文化ゾーンみたいなものを新たに別のところにつくって、商業集積とは違う形での町並み整備というのもしられるところもあると思うんですけれども、文化施設だけで誘客できる力というのは、残念ながら非常に限られているというところがあります。また、それだけだと地元にお金も落ちないというところもあるかと思っております。せっかく文化で来ていただいた方にまちを楽しんでもらって、そのサービスに関してしかるべき対価を払っていただくというようなことも考えるのであれば、できれば郊外立地ではないほうがいいのではないかなというのが2点目です。

それから、3点目は、先ほどもこれからつくる仙台のホールということを行いましたけれども、これまでの自治体の文化政策の大きなところというのは、文化施設をつくるということに非常に予算的にも力を入れてきたところなんですけれども、それがホールをつくったところで終わるのではなくて、ホールをつくったことによって、人づくりとか、まちづくりとか、魅力づくり、都市のブランディングとかにつなげていくというアウトプットだけではな

くて、アウトカムまで考えるというのが今の大きな流れになっております。なので、このホールをつくることによって、たくさんのいろいろな文化活動が行われる。その行われることによって、その先、もう少し都市戦略の中にしっかりとこのホールを位置づけていただくということも重要ではないかというふうに思います。今まさに都市のマスタープランですか、つくられているところだということですので、この仙台市、どういう形にしていくのか。特にこの中心部の集積をどういう形で生かし、大きく言うとグローバルに戦える競争力を持たせていくのかということなのではないかと思うんですけれども、その中に戦略的に文化施設も組み込んでいただくと非常にいいかなと思います。既存のものもありますので、そことうまく集積のメリットを生かせるような形で、都市マスと連携をしながら文化施設も考えていただくと、より大きな社会的なメリットが生まれるのではないかなという感じがいたしました。以上です。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。

3点紹介いただきましたけれども、多分私たちというか、垣内さんや私のように東京から来ている人間が言っている郊外と、仙台で言っている郊外というのは少し違うように思うんですけれども、その距離感というのは同じように感じる場所です。

グローバルな競争力というのはどこの都市でも持ちたいと思っているし、今、東京だって四苦八苦しているわけで、アジアの中でいろいろな都市間競争が起きています。そういう中で、仙台がこういう施設をきっかけに、先ほど3番目に垣内先生がおっしゃってくれた、このプロジェクトを推進していくことで、建物だけとか組織だけができるのではなくて、それにまつわるいろいろな人材、まち、魅力など関係する事柄と一緒に育っていくんだという視点は非常に重要で、そういう視点から敷地を考えた方がいいというお話でした。ありがとうございました。

では、続いて庄子委員、お願いいたします。

#### ○庄子委員

私も今回の立地に関しては、一つはやっぱり都心部への立地。都心部の中で、なぜ駅前なのか、中心市街地なのか、それとも公共空間を利用するのか。先ほど垣内先生がおっしゃっていたように、まず、なぜ都心部かといいますと、スプロール化というのが仙台はまだ抑えられていないのではないかなと、私自身はすごく感じています。二極化していて、都心部への戻りというのはあります。一方、隣接市町村を考えると、富谷とか、名取ですとか、その辺に結構人口が集まっているんですね。なので、スプロール化がまだ拡大しているかなというふうに感じているところです。そういったことを考えると、やっぱり都心部にもう一つ文化的な拠点を設けることは、非常に仙台市としては大事なのではないかなというふうに考えております。

もう一つ、その中で、では都心部の中でどこかといったときに、いろいろ考えたんですけれども、私は観光学を専門にしているので、観光資源の考え方で言うと、その資源を主目的に置くか、それとも、副次的な目的に位置づけるかという考え方があるんですね。例えば、主目的で言いますと、今回の音楽ホールを主目的の観光資源というふうに位置づけますと、音楽ホールがあることによって、音楽ホールの来館者に来てもらう。その音楽ホールが素晴らしい傑出した施設なので、外からも呼び込むことができる。東北からも、国内からも、海

外からも呼ぶことができる。そういった傑出した施設であれば、私は少し例えば駅から離れたところにあってもいいのではないかなというふうに考えています。それを目的に来るので、少し離れた方が、例えば駅に戻るまでにお金を使ってくれるという考え方があるのではないかなと。それから、音楽ホールを拠点として回遊性を高めるということが考えられるのではないかなというふうに思います。なので、少し駅から離して、遊歩道などを整備しながら回遊性を高めるという考え方があると思います。

もう一つは、別に音楽ホールが主目的ではない。もちろん主目的で来る方もいるんですけども、そうじゃない人も寄ってもらえる。市民の方が、今までは音楽ホールとかと縁がなかった市民の方が、これは誰もがというのが今回の施設のコンセプトの中に入っているんですけども、そういった縁のなかった人も、駅前に例えばあることで、すてきなホールができたことで足を運ぶ。すごく利便性の立地のいいところなので足を運んでもらえる。そういったことに、主目的が別にあって寄ってもらうような、潜在的な需要を掘り起こすような施設と言うと、駅前の立地のほうがいいのではないかなというふうに私自身は考えました。

そうすると、観光資源的なことと言うと、都市観光と言うと幾つかある資源の一つに後者は位置づけられて、前者はメイン資源として位置づけられるような、そういった施設のコンセプトといたしますか。

#### ○本杉会長

前者というのは、少し駅から離れていてもいいという意味ですね。

#### ○庄子委員

そうですね。都心部の中で少し、例えば今回出ているのは800メートルとか、1.2キロメートルというふうにありますけれども、そういったところに立地するのであれば、それなりに傑出した施設である必要があるかなというふうに考えています。以上です。

#### ○本杉会長

どうもありがとうございました。

駅前か都心部かという話で、劇場とかホールに目的を持って来る人にとっては少し離れていた方がむしろいいのではないかという提言でした。つまり、目的施設に行くプロセスで人がまちを動いてくれることに意味があるということですよ。そうした目的を持たない人たちに対しては、ふらり寄ってもらうという意味では、駅から近い方がいいというお話でした。

私が関係したまつもと市民芸術館は、ほとんど観客用の駐車場がないという施設でした。その当時の市長がそれでいいと言ったのは、まさにその回遊してもらうという、駐車場が施設そのものにくっついていいなくても、少し離れたところにある駐車場を利用してもらって施設まで歩いて来てもらう。帰りはまたそこまで歩いて行って、そこからまたどこかに行ってもらおうという、そうした途中の過程がまちを動かしていくのではないかという考え方で推進したんですね。実際、多少不便なところもありますけれども、非常にうまく人の動きができてきたのではないかなと思いますね。そういった意味で、今庄子委員がおっしゃったようなあり方は十分に考える価値があるのではないかなというふうに私自身も思います。ありがとうございました。

では、続いて、高田委員、お願いいたします。

#### ○高田委員

私にとって非常に難解な部分に突入したなと思って、非常に困惑しているんですけども、

文化芸術のイコール経済、いわゆる文化芸術の施設を維持していく経済効果を発揮できる人口というのは大体250万人とかとよく言われていますよね。そうすると、将来的なことを考えると、先ほど東京からお見えになったお二方も1時間半で来られたとかとおっしゃっていましたがけれども、もしかしたら将来は、10年後には45分になるかもしれないし、鉄道というより、もっと違う移動の道具ができるかもしれないし、将来的に公共交通機関というか、足に車を持った交通公共機関は今みたいに路線バス化していない、いわゆるダイヤ化されていない非常に柔軟性のあるITの技術によって柔軟性を持っていけるようになるということも含めて、非常にこう立地については難しいなど。私は本当にアーバン開発のご専門の方でも多分すごく難しい部分でいらっしゃるのだと思うんですけども、私みたいな素人にとっては、意見を言うことすらはばかれるかなと思うぐらい難しい分野だというふうに思っております。以上でございます。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。

恐らく東京から来ると、現在は1時間半では難しいですけども、時間距離で言うと非常に短いんですね。恐らく新潟に行くくらいの感覚ですね、同じ時間で行きますので。その場合、ご存じかと思えますけれども、東京に行ってしまうという逆の流れがあって、いい催しだったら東京に行ってしまう。それは新潟も一緒に、新幹線ができる前から新潟ではそうだったらしいんです。そういう人たちが東京に行く流れは引きとめることはできないけれども、魅力ある施設とか活動というものを展開していくことで、そこがさらにプラスの作用としてうまくいくという感じがしています。それをうまく新潟りゅーとぴあはやっているのではないかなと思っています。そういった意味で、距離感が非常にいいだけに、頑張らないといけないという感じはすごくします。おっしゃるとおりじゃないかなというふうに思います。

では、続いて、文化観光局長の天野委員、お願いいたします。

#### ○天野委員

役所の人間がここで結論めいたことを言えないので、少し抽象的な話になってしまいますが、一つは都市マスをつくらうとしているということがありますが、もう一つは、近代都市計画、先ほど資料の中にもありましたけれども、ゾーニングがされて、そして高効率の、言ってみれば目的なども区分けして立地をさせるということは、高度成長期においては非常に効率的だったんでしょうけれども、今後、10年どころか、20年、30年、40年というふうに考えていきますと、そういった都市計画についても大きな曲がり角に来ているという認識があり、そうすると、効率とか、ある一定の種類の方たちがいるというよりは、ホールにさまざまな老若男女またはいろいろな目的を持った方々などが集まるような、そういった立地というものが考えられるのではないかと。例えば、それはホールの魅力、ホール単体の魅力もあります、やはり周辺環境の魅力とあわせて評価すべきことであり、単に利便性とか効率だけではない見方が必要なのではないかというふうに思っております。言ってみれば、一つの神話的な評価というか、そういうものもあるのではないかと。例えば、今回我々は人材育成などが非常に重要であるというふうに考えていますが、では人材育成に優れた環境とはどういうことなのかというようなことも、やや抽象的になりますが、そういったことも評価すべきではないかと。例えば、年齢によらない様々な方々が伸び伸びと自分たちのスキルを磨いたり、可能性を広げたりする環境というのは、果たして単に駅からの距離とか、そうい

ったことだけでおさまるのかということになると、やはりそういう活動、アクティビティをするにふさわしい環境というのは一体どういうものか。そういうものもやはり一つの尺度として、立地について検討していくべきではないかというふうに考えております。以上です。

#### ○本杉会長

どうもありがとうございます。

都市計画的なゾーニングの問題から入っていただきました。ゾーニングというのは、色分けと我々呼びますけれども、ある地区を一様な状況に誘導してしまうというところがあって、ヨーロッパでよく見られるようなまちの中に住宅が混在するような状況を生みにくい。工場は工場、商業は商業、住宅は住宅となってしまうがちな手法です。そういう施策でやられてきたけれども、そういった一様な社会環境をつくるのではなくて、もう少し多様な生活環境をつくり出していく必要がある、それが今、日本の大きな課題の一つではないかと思うんですね。そういった意味合いにおいて、今、天野委員がおっしゃったように、様々な人々が集まることが、我々が今考えている施設の目標であるとしたら、まさにそういう様々な人たちが集まる、様々なというのは、年齢や性ではなくて、あるいは障害ではなくて、本当に幅広い人たちという意味だと思いますけれども、そういう人たちが集まる立地環境、周辺環境を含めて考えるべきだという話でした。具体的にどこということとはわかりませんが、非常にいい、幅広い指摘ではないかなと思っています。ありがとうございました。

では、続いて、村上委員、お願いいたします。

#### ○村上委員

2点ありまして、1点がもう既にお話が出ていらっしゃいますとおり、多くの方が集えるか、経済的波及効果があるか、そして、都市間競争の中で戦える場所にあるか、戦えると言うか、都市間競争の中で、また、インバウンドと言うのでしょうか。観光の魅力も保てる立地であるかということがとても重要だと思っています。そのためには、できるだけ市内、中心市内にあることが重要だと思っています。

もう一つの観点で、立地と少しずれるようにも聞こえることかもしれませんが、持続可能性というか、維持管理の持続可能性といいますか、サステイナブルといいますか、その建物自体がつくって終わりではなく、そこから継続されるわけなのですが、継続される集客ないしは単独で、先ほど垣内先生もおっしゃられたことですが、この文化施設だけでは集客ができないというか、少子高齢化のこの時代において、拡散するのではなくて集約されると。その中で市で予算を出しながらやれることというのは、継続させるためにはもっと民間の力を借りる。民間と共同で行う。ないしは、県と共同で行う。ないしは、市の既存の建物で行う。ないしは、県でも民間でも市でも、どこか全く違った既存の建物の、先ほどリノベーションの話ございましたけれども、共同で行うというかですね。民間の価値という、新しく建物を建てる立地を探そうということだけではなくて、既にある都市が動いて、仙台の駅前は今少し問題だなと思っていますけれども、いろいろな形で都市開発動いている中で、できるだけ遠くの方も仙台に立ち寄ろうと思えるような都心の、市内の中での集客施設ということをお考えになられるのもよろしいかなと思いました。以上、2点です。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。

都市間競争でも魅力ある立地、持続性ある活動はとても大事な視点です。中心部で、施設

ができた後の方がより問題だから、民間の力、他組織あるいは既存施設と共同しながら考えるべきで、そういう場所がいいのではないかというお話だったかと思います。ありがとうございます。

三塚委員、お願いいたします。

#### ○三塚委員

立地のことに関しては、皆さん大体同じような意見になってきているのかなと思うんですが、私も「楽都・仙台に復興祈念『2,000席規模の音楽ホール』を！市民会議」に参加しておりまして、その中でいろいろな要望がありました。やはり共通しているのは、中心部で、交通アクセスの良い所で、買い物や飲食、そういうものとの関連で一緒にやれる所といいですか、そのような場所に建てられたらいいなという意見が多かったんです。私も日頃からそのように思っております。

前回のお話の中で、合唱連盟のコンクールでの入場者が大変多く集まったということがありましたが、吹奏楽コンクールでも仙台市の予選大会4日間で聴衆、出演者、役員を含め2万人。県大会も先週終わりましたが、出演者9,000人、聴衆、役員、補助役員の高校生含めて1万人以上で約2万人ぐらいでした。時間帯にもよりますが超満員で入場制限をしたり、大変無理をして実施した感じであります。そのような状況ですので、立地場所と併せて、建設の時期も早期にしてほしいと思っております。立地に関しては、皆さんと同じように中心部という願いを持っております。よろしくお願いいたします。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。4日間で4万人というのは、延べ4万人でしょうか。

#### ○三塚委員

延べ4万人です。

#### ○本杉会長

延べ4万人ですよ。私たち建築学会というかなり大きな学会が毎年各地で行われるんですが、今年は仙台で行われます。前回来た時は、のんびりホテルを予約しなかったら大変な目に合いましたので、今回は春前に予約しました。大きな大会があると、ホテル探しは非常に厳しいんですよ。ですから、延べ4万人と聞いて大丈夫だったのかなと思いました。

#### ○三塚委員

延べです。

#### ○本杉会長

おっしゃる通り外から来る大会参加者などにとっては、中心部でアクセスがよくて買い物も便利と、おそらくみんながそう言うのではないかなと思います。それにふさわしい場所があるといいですね。おそらく誰もが願うお話じゃないかなというふうに思います。ありがとうございました。

では、最後になりますが、今井副会長、お願いいたします。

#### ○今井副会長

今、三塚先生がおっしゃったこと、この間私も同じような観点で申し上げたんですけども、例えば2,000席のホールがあったときに、2,000席はコンクール東北大会には必ず必要なんですけど、これは常に2,000席が入っているわけではなくて、入れ替わり使われることによって、延べ4,000人に使われるといったことです。それだけのキャパがないとコンクール



は機能しないということです。

僕はこれまで、音楽ホールの中身にだけ、つまり音楽だけに関わってきました。外からこの音楽ホールをどうやって建てるかとか、どうやってどれぐらいの規模でということとはほとんど考えてきませんでした。中身、すなわち音楽のことばかり考えてきたのですが、ただ、40年間コンクールも出続けていまして、いまだに現役ですので、おそらく日本中のコンクール全国大会ができる、2,000席以上のホールをほとんど経験しています。やはり僕にとっていつも大切なのは、音楽の中身なのですが、それを伝えるためには、必ずその入れ物が必要になります。音楽を共有しようとするとき必ず入れ物が必要なのです。それが20年後にできるからいいんだということではなくて、今必要なのです。音楽は常に今生まれるからです。今、共有することが、音楽にとって肝心なことだからです。そういう意味で、今回のホールは、できるだけ早くという要望が基本にあります。非常に切羽つまっている状況なのです。今回はとてもいいホールができるという期待があります。ホールの響きの良さや、その環境などは、当然音楽の中身をさらにいいものにする大切な要素です。何処にということを一言も触れずに来ましたが、やはり市街地の中心部、ないしそこにできるだけ近いことを望んでいます。新しい最新のホールが、様々な付加的な目的を持ちながら、多くの市民に愛され使われてゆくためには市の中心部にあることがふさわしいからです。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。

様々な意見を出していただきありがとうございました。今、仙台市が目指しているコンパクトシティ、コンパクトなまちづくりという方向性は皆さん共有されているのではないかなと思います。庄子委員がわざわざそう言うのは、まだスプロール化が進行形なのではないかという懸念からで、だからこそ、今コンパクトなまちづくりを目指すという話題が仙台市であるのだろうなというふうに思いました。そのコンパクトなまちづくりという方向をもとに、できるだけ都市の中心部で、人々がアクセスしやすく、交通の便もよくて、買い物も便利だったらいいね、それを早くつくってくださいねという、ご意見でした。

一方、ホールをつくるこの計画を推進していく中で、垣内委員がおっしゃったように、施設だけ、あるいは組織だけをつくるのではなくて、それを実行していく中でいろいろな人たち、あるいはその周辺環境、まちをつくっていくということこそよく考えるべきで、それにふさわしい場所がいいだろうというお話でした。

その場所を考えるに当たっては、様々な人が集まる場所なのだからこそ、その周辺環境、利便性だけに焦点を当てるのではなくて、周辺環境と併せて考える。人材育成にふさわしい場所は何だろうかというその視点が大事だということが天野委員の話でもありました。

都市間競争が進んでいる中で、観光的な魅力というのも非常に重要で、施設ができたからこそ大きな課題が動き始めるわけで、そういう意味でやはり早い段階から既存施設も含めた共同体制、協力関係というのは考えていく必要があるし、そのための場所、立地というものを考えていく必要がある。その時に、ホールを目的として来る人にとっては、むしろ少しぐらい離れていた方が都市の中における回遊性というのが高まる。もちろんそうではない人にとっては利便性の高いところがいいのだろうけれども、ホールを目的として来る人にとっては回遊性を持たせて、敷地選びをすることで、都市の回遊性、活性化というのが起きるのではないかという庄子委員のお話もありました。

今まで皆さんからいただいたお話や話題に基づいて、それらを参考にして今後専門部会を設置し、専門的な見地から検討をしていきたいと考えております。専門部会の設置に関する規定については、事務局から説明をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

#### ○事務局（文化振興課長）

資料の最後のページに、懇話会の設置要綱がございます。

この第6条でございます。第6条、専門部会。6条は7項目ありますけれども、最初の設置と委員に関する部分だけご紹介させていただきます。

第6条の第1項、懇話会は、専門の事項について調査審議させるために必要があると認めるときは、専門部会を設置することができる。これは懇話会の総意として、そういう判断があるという内容でございます。

第2項でございますが、専門部会は、会長が指名する委員及び専門委員をもって組織すると。ここは、会長の権限で委員を選んでいただくという内容でございます。

第3項でございますが、専門委員は、第3条第1項各号ですね。第3条第1項各号はどういう委員かといいますと、学識経験者、本市の職員、その他市長が適当と認める者の中から市長が委嘱して任命をするということになってございます。以上でございます。

#### ○本杉会長

ありがとうございました。

専門部会を設置した場合、調査検討の進め方については事務局でどのようにお考えになっているのか、説明いただけますでしょうか。

#### ○事務局（文化振興課長）

事務局で今後、本日の懇話会の議論、整理を踏まえまして、数カ所の候補地を具体的に提示させていただきたいと思っております。専門部会におきましては、それぞれこちらから提示した候補地の評価、必要な法的な手続ですとか、実現可能性などにつきまして、まちづくりの観点も踏まえながら調査検討をいただきたいというふうに考えております。

複数の候補地をこれからお示しするために、一定程度お時間をいただくこととなりますので、専門部会の会議は10月の後半ぐらいからというふうには今のところ見込んでおります。専門部会で何回か検討いたしますけれども、その検討結果がまとまりましたら、この懇話会に再度報告をいたします。それをもとに、改めて懇話会の皆様のご審議をいただきまして、懇話会の検討報告書としてご提出をいただくという流れを想定してございます。

#### ○本杉会長

ありがとうございます。

先ほどの参考資料4にもあったように、ホールは舞台の大きさや、舞台の高さというものがある程度決まっておりますので、例えば一般のオフィスビルや住宅などと違って、どうしてもある一定の寸法関係というのが必要で、どこでもいいというわけにはいかないところがあります。また、振動・騒音などに対しても非常に微妙なので、地下鉄や鉄道の影響というものも、あるいは高速道路などの影響もあつたりします。そういうものも含めて、いろいろ市の方で検討した案を出していただけるものだと思います。

専門部会を設置することについて、委員の皆様の承認をいただきたいと思います。い

かがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

#### ○本杉会長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

では、名称は立地検討専門部会としたいと思います。また、メンバーについては、仙台市から提示される敷地の条件等によって、どのような検討が必要で、そのためにどのような専門家が必要なのかということを考えていく必要があります。そのために、建築、まちづくり、都市計画の分野は必要と思いますので、この懇話会からは私と垣内委員、それから、本日出席ではありませんけれども、宮原委員、そして仙台市の文化観光局長の天野委員の4名を私の方からは指名させていただきたいと思います。

懇話会委員以外の専門委員につきましては、後日、仙台市がどのような候補地を示していただけるのかを伺った上で、2、3名を私から指名したいと思っております。

それから、市役所の都市計画部門やまちづくり部門の方にもオブザーバーとして専門部会に出席してもらいたいと思っております。

垣内委員、天野委員含め、皆さんよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

#### ○本杉会長

よろしく願いいたします。それでは、そのような形で進めてまいりたいと思います。

宮原委員は欠席なので、事務局から本人に専門部会委員就任についてご確認をお願いいたします。

以上で本日予定されていた議事は終了となります。

皆様、どうもご協力ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

### 3. 閉会

#### ○事務局（文化振興課長）

本杉会長、ありがとうございました。

最後に事務連絡でございます。議事録についてでございますけれども、今回、本杉会長、高田委員が議事録署名人と決まりましたので、署名する前に事務局で作成しました議事録案を委員の皆様全員にご確認をいただきまして、その後に本杉会長と高田委員にご署名をいただくというふうに思っております。よろしくお願ひします。

また、委員の皆様にご案内状を送付しておりますけれども、このチラシでございますね。1月の後半に第1回目のシンポジウムを行いましたけれども、9月の1日、第2回目のシンポジウムを予定しております。9月1日の土曜日午後2時から、旭ヶ丘の日立システムズホール仙台のシアターホールでございます。大変お忙しい時期かと思っておりますけれども、お友達とかなんかも声をかけていただきながら、たくさんでご出席をいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

次の第5回目の懇話会でございますけれども、専門部会が10月後半から何回かやるということになりますので、おそらく来年の1月ぐらいになるのではないかというふうには思っております。改めてご案内をいたしますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、以上をもちまして第4回仙台市音楽ホール検討懇話会を終了いたします。  
皆様、どうもありがとうございました。